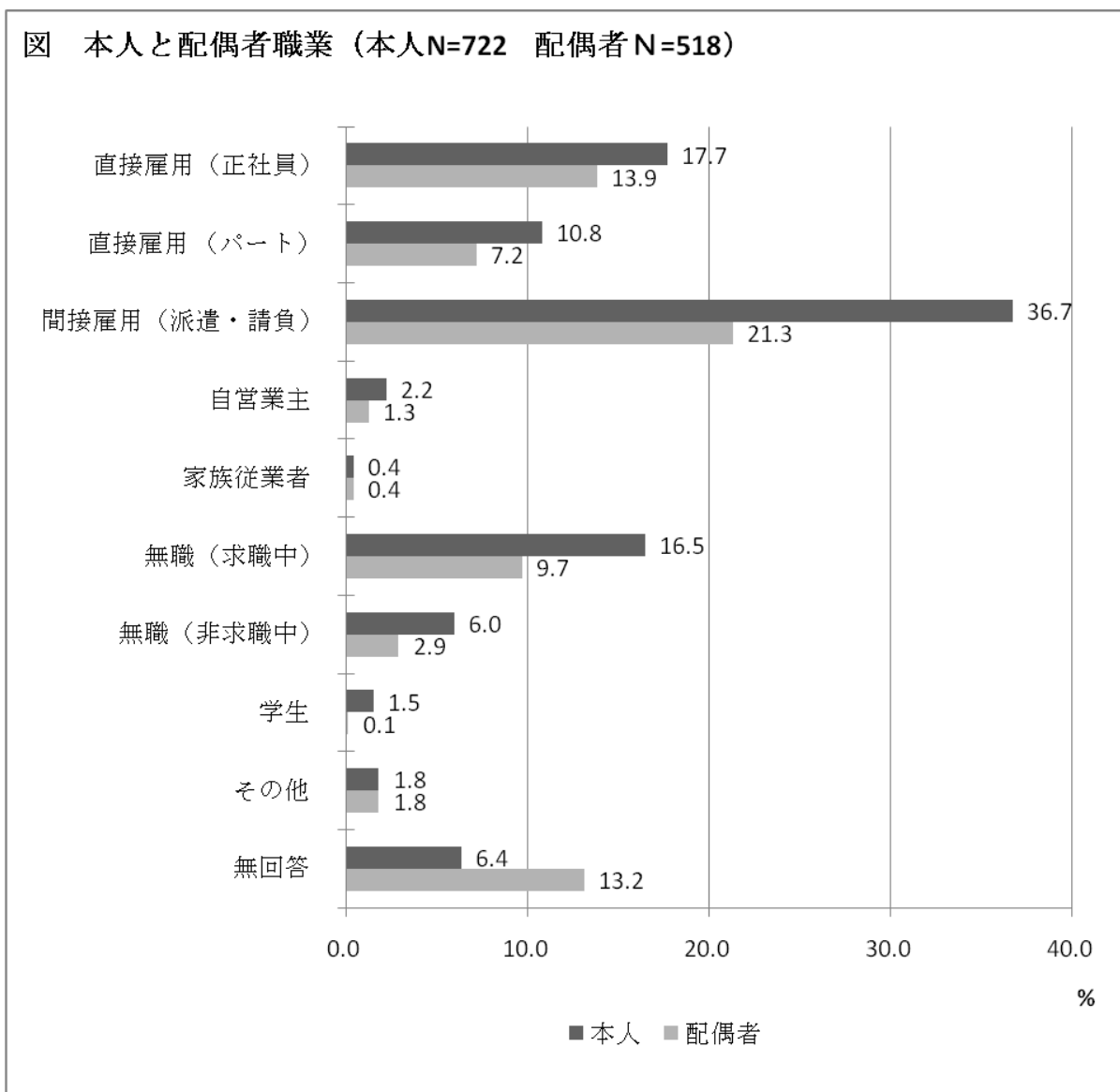


2. 就労および収入と健康状態
玉置えみ（ワシントン大学大学院博士課程）

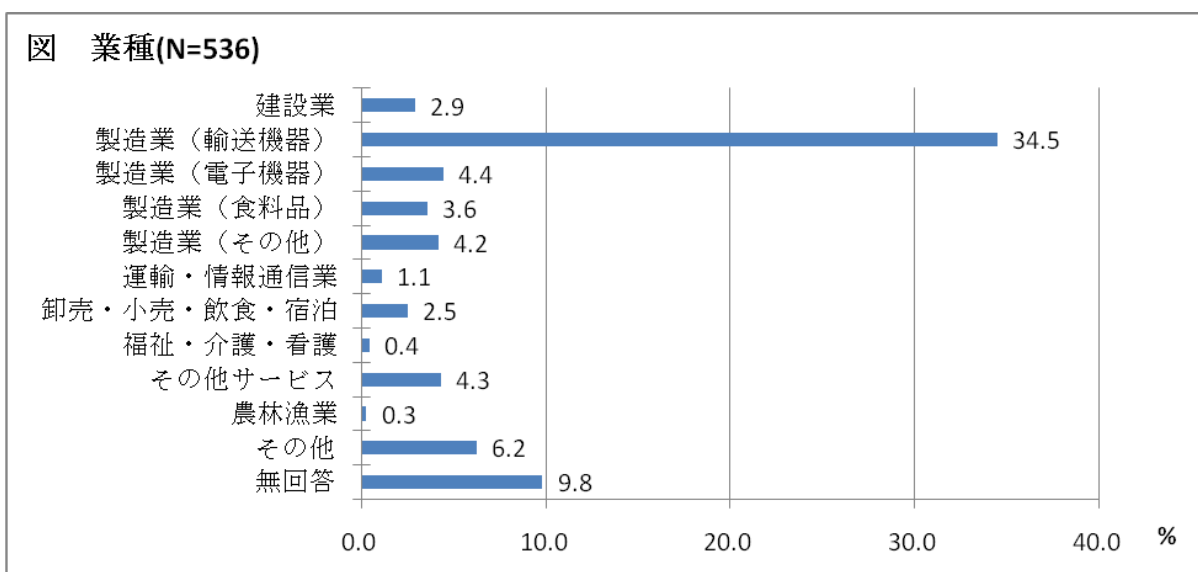
問 23 あなたと配偶者の現在のお仕事は大きく分けてどれにあたりますか



本人と配偶者の職業についてたずねたところ、本人、配偶者共に、派遣・請負などの間接雇用(本人 36.7%、配偶者 21.3%)、正社員としての直接雇用(本人 17.7%、配偶者 13.9%)、無職あるいは休職中(本人 16.5%、配偶者 9.7%)の順に高い回答割合を示している。

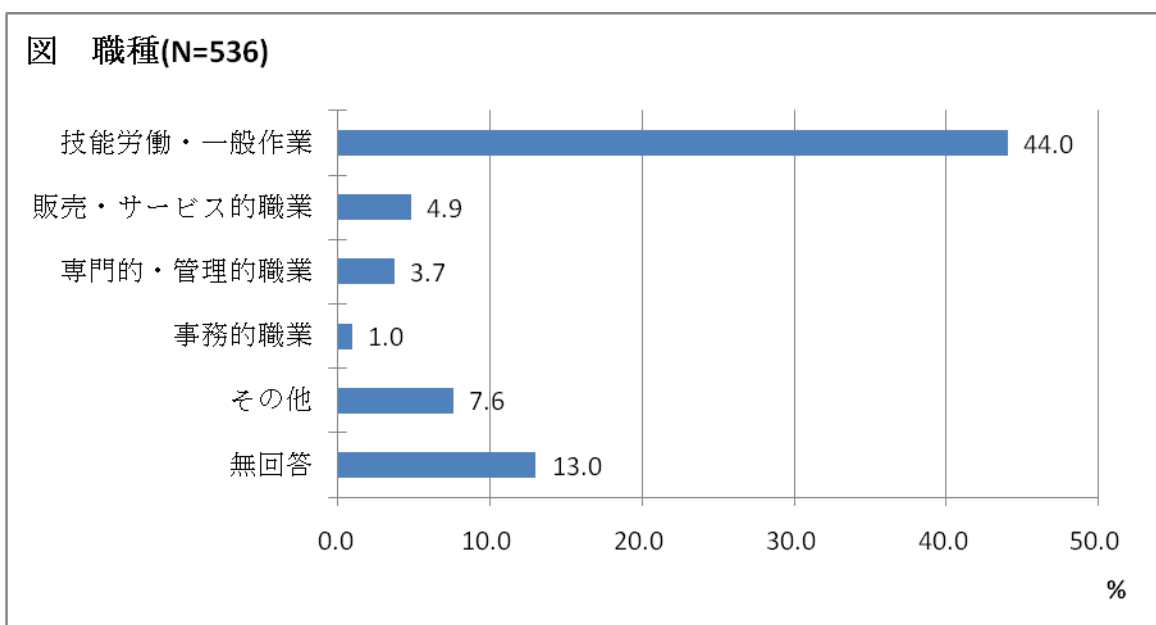
以下は 問 23 で直接雇用（正社員）、直接雇用（パート・アルバイト）、間接雇用（派遣・請負）、自営業種、家族従業者、へ回答した方のみ回答を依頼している。

問 23-1 どのような事業を営んでいますか



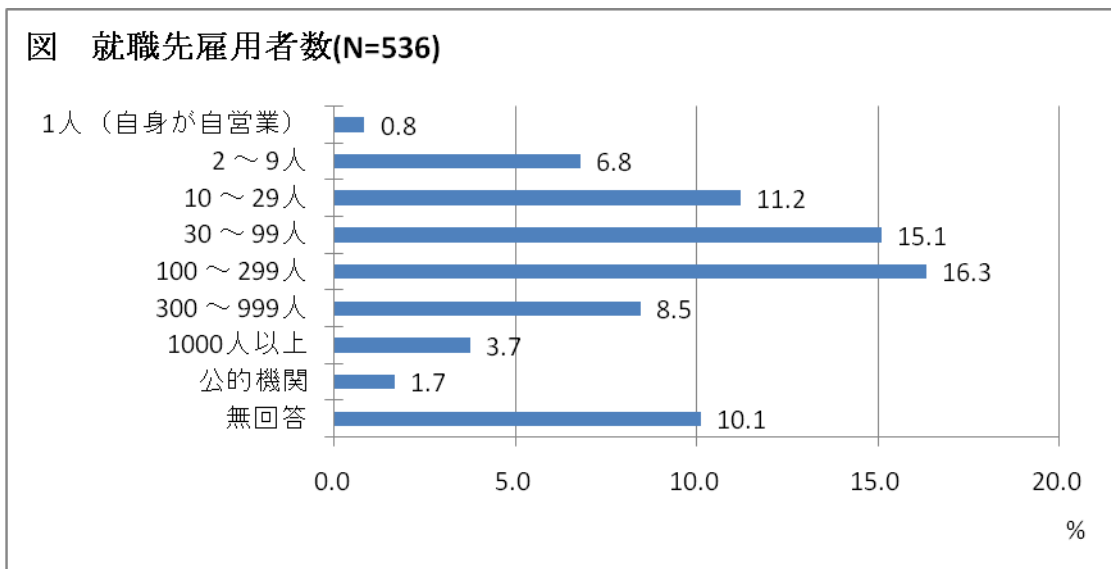
実際に働いている方々に業種についてたずねたところ、輸送機器などの製造業に従事している回答者の割合が最も高いことが分かった（34.5%）。

問 23-2 具体的なお仕事の内容を教えてください



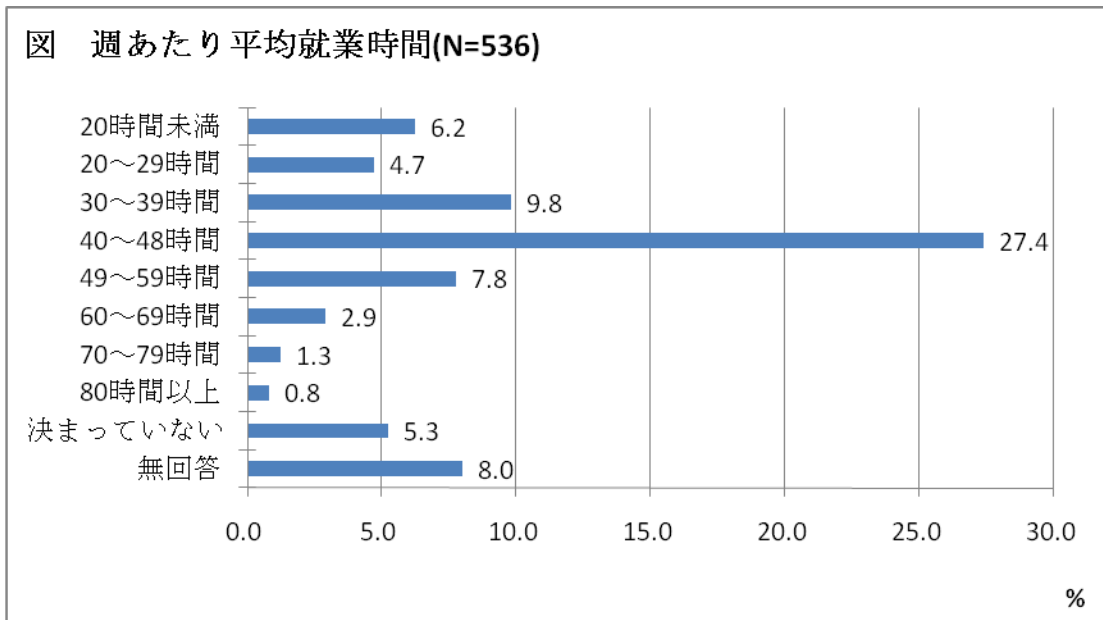
具体的な職種についてたずねたところ、技能労働・一般労働の回答割合が最も高かった（44%）。

問 23-3 あなたの勤めている企業の全従業員は何人ですか



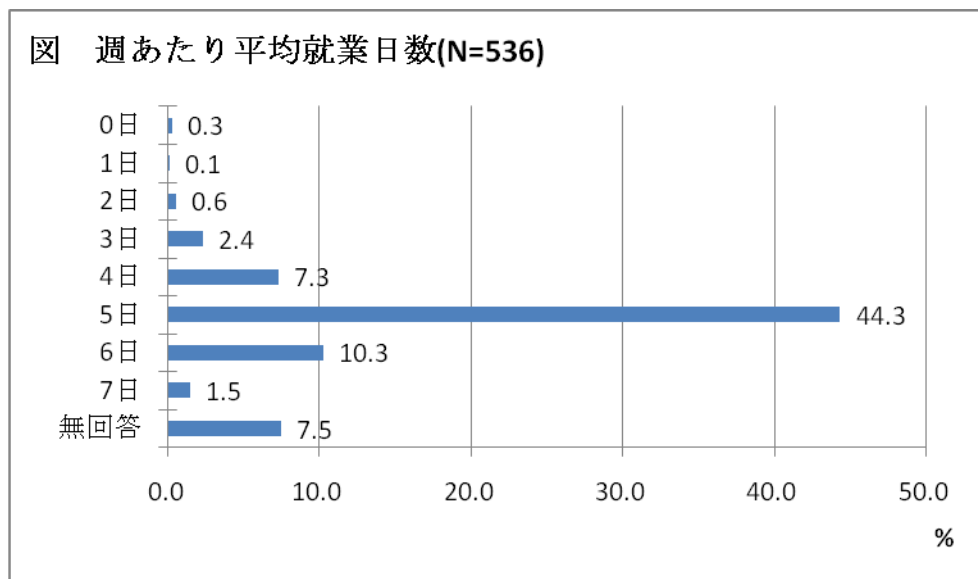
回答者の職場の企業の従業員数をたずねたところ、回答割合は、100～299人(16.3%)、30～90人(15.1%)、10～29人(11.2%)の順に高いことが分かった。

問 23-4 一年を平均した一週間の就業時間はどのくらいですか (残業・副業を含む)



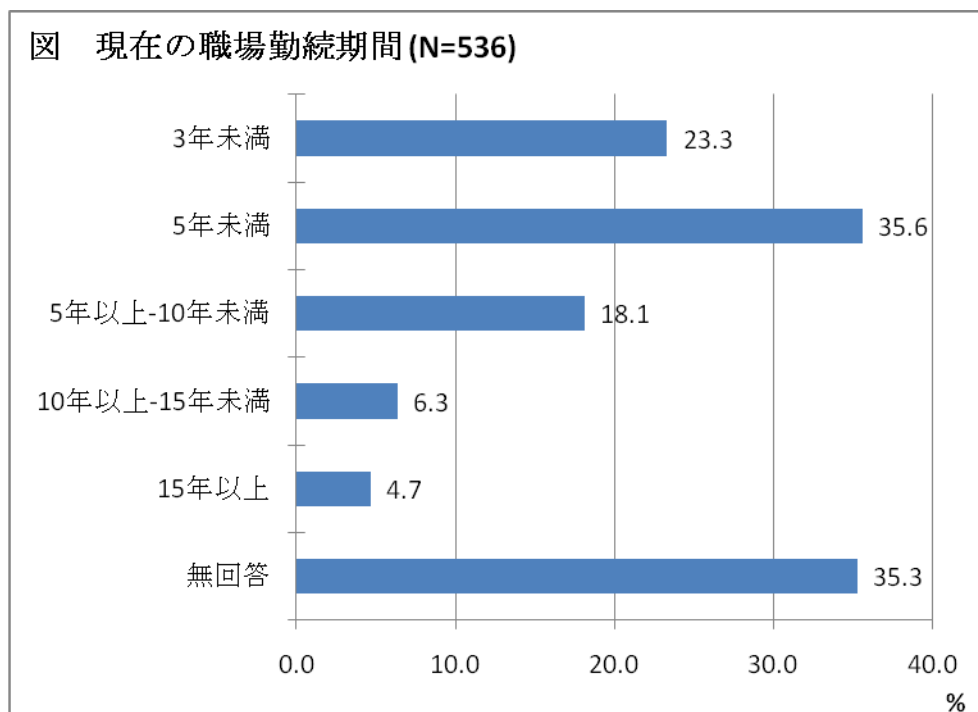
残業や副業も含めた一週間あたりの就業時間をたずねたところ、40～48時間の回答は27.4%となっており、全体の中で最も高い割合を示している。また、20～39時間は14.5%、49～69時間は10.7%であった。さらに、少数(2.1%)ではあるが週に70時間以上働いている方もいることがわかる。

問 23-5 一年を平均した一週間の就業日数はどのくらいですか



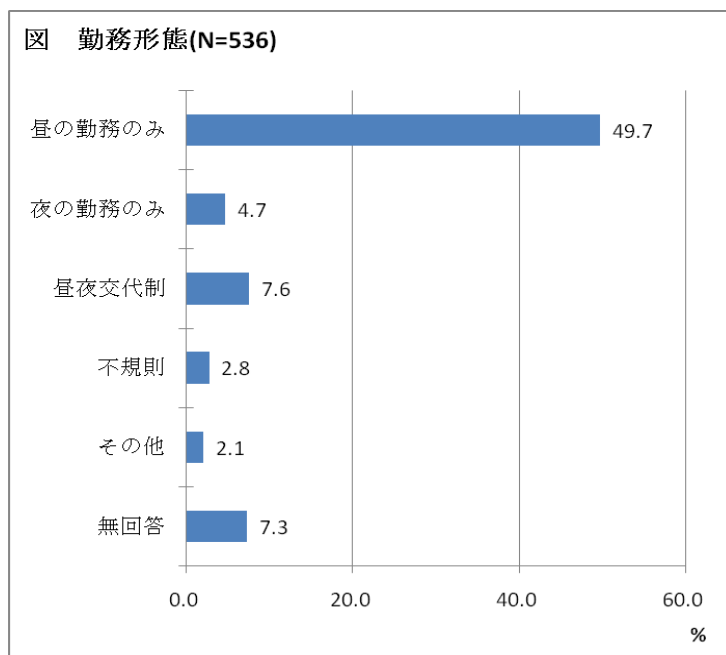
一週間の就業時間を尋ねたところ、44.3%の回答者が週 5 日と回答している。また 10.3%の回答者が 6 日、1.5%の回答者が 7 日と回答している。

問 23-6 現在の職場の勤続期間はどのくらいですか



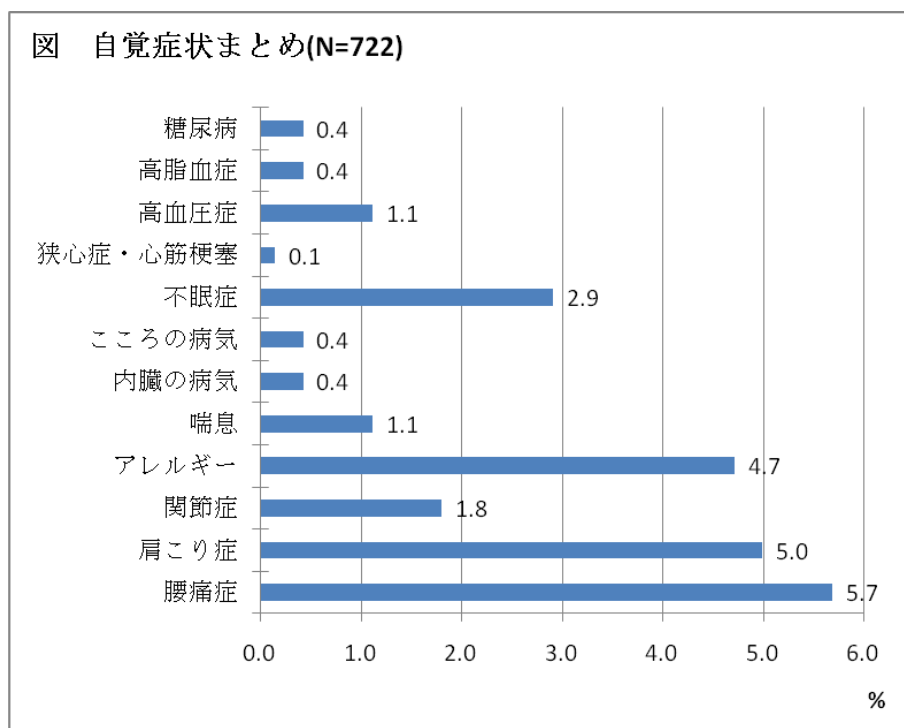
現在の職場の勤続期間をたずねたところ、勤続期間が 5 年未満の方が約 36%、10 年未満の方が約 54%を占めることがわかった。現職場における勤続期間は、多くの回答者にとって、比較的短いことが分かる。

問 23-7 勤務形態は以下のどれにあたりますか

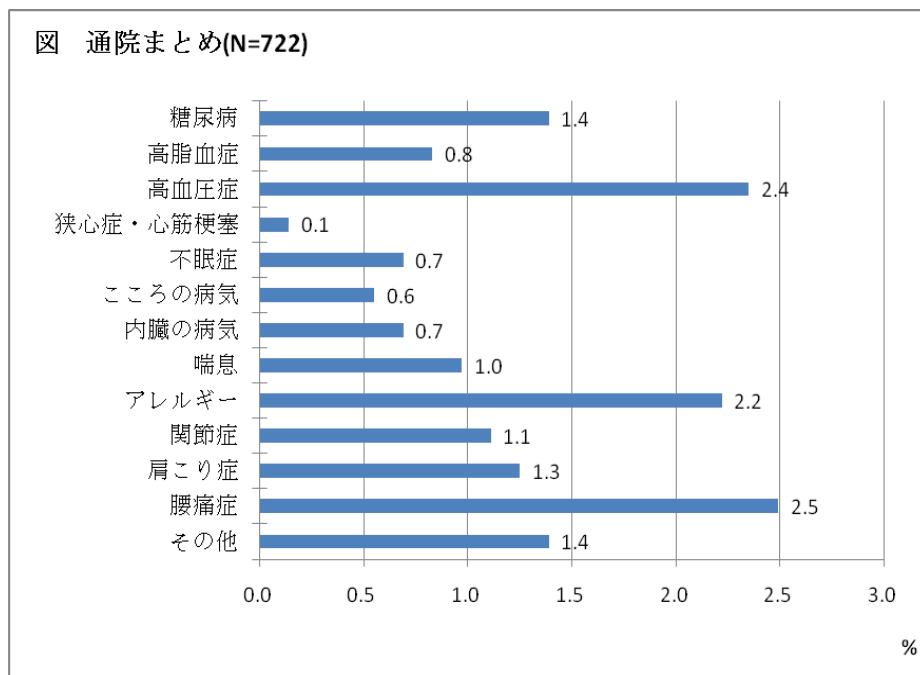


勤務形態を尋ねたところ、回答の割合は昼の勤務が約 5 割で最も高いことが分かる。その他、昼夜交代が 7.6%、夜の勤務のみが 4.7%となっている。回答者の多くは概ね昼間の労働を中心とした生活をしていることが分かる。

問 24-1 現在以下のような病気やけがの症状がありますか。自覚症状がある場合

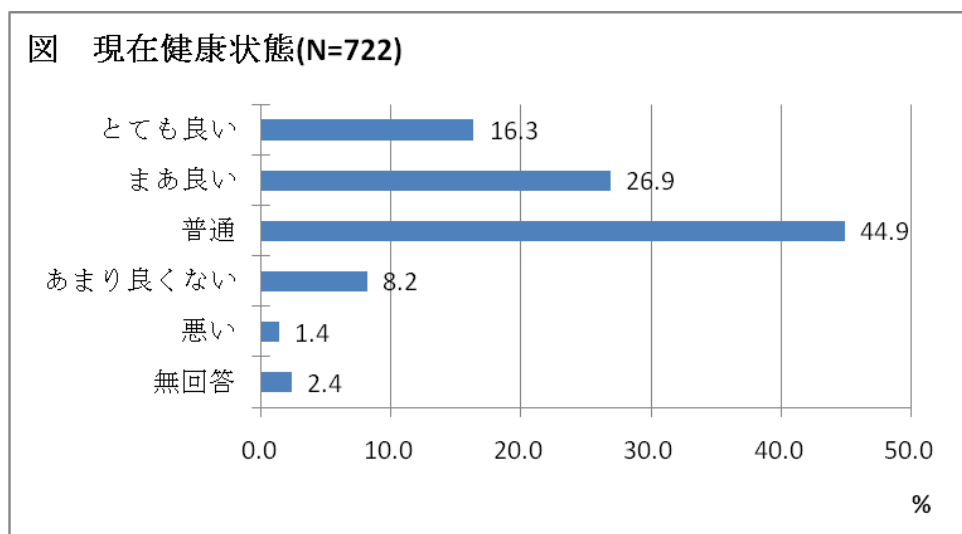


問 24-2 現在以下のような病気やけがの症状がありますか。通院している場合



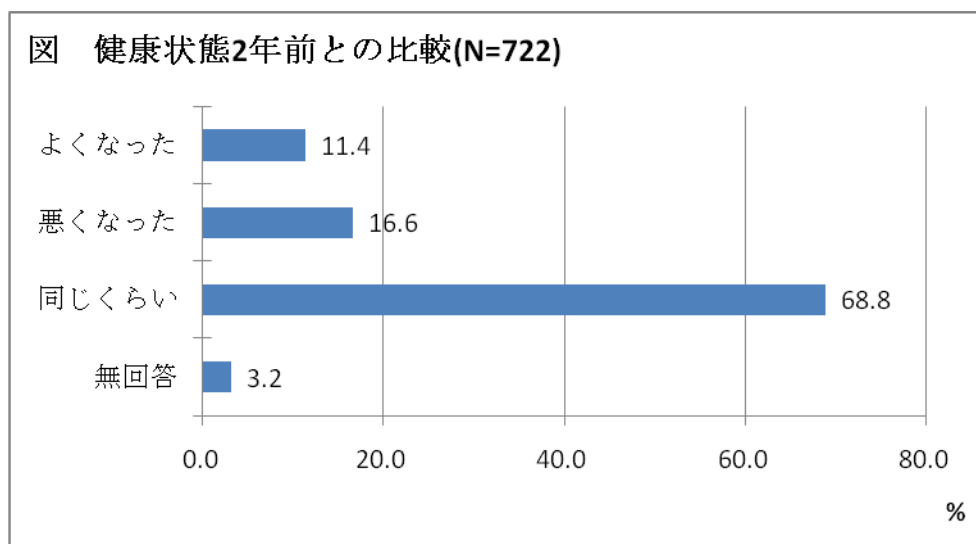
24-1、24-2 は、病気やけがについての症状をたずねたものである。24-1 は自覚症状について、24-2 は実際に通院しているかについてたずねている。自覚症状についての回答の分布は、高いものから腰痛症 5.7%、肩こり症 5.0%、アレルギー 4.7%、不眠症 2.7%の順になっている。他方で、実際の通院についての回答分布は高い順に、腰痛症 2.5%、高血圧症 2.4%、アレルギー 2.2%、糖尿病 1.4%となっている。自覚症状、通院双方において、腰痛症の割合が最も高いことが分かる。さらに自覚症状については、腰痛、肩こり、アレルギーなど比較的容易に認識できる症状の回答割合が多くなっている。他方で、実際の通院に関しては、高血圧症、糖尿病など、医師による診断を伴ってはじめて分かる症状の割合が大きいことが分かる。

問 25 現在の健康状態はいかがですか



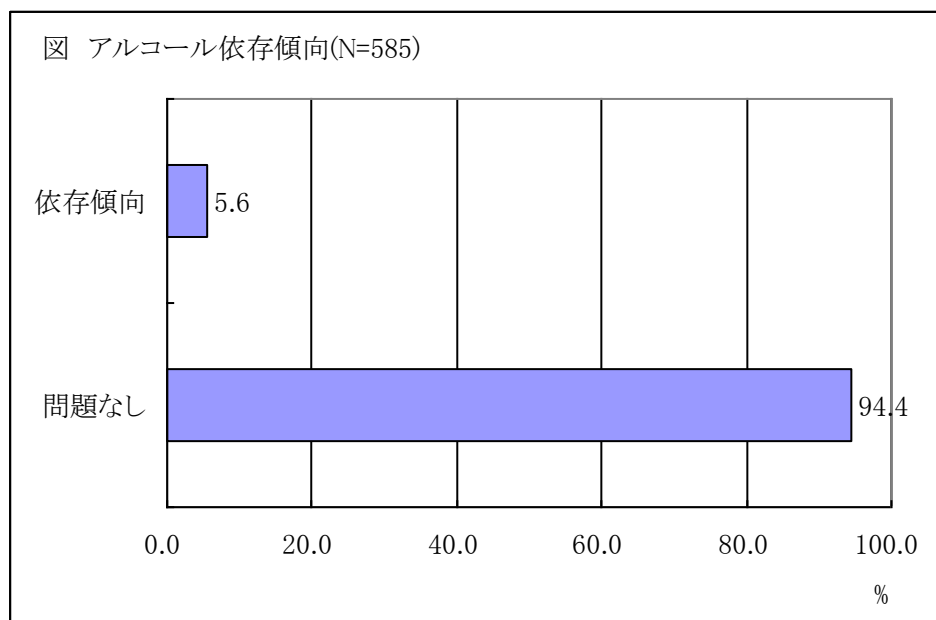
現在の健康状態をたずねたところ、普通と回答した方の割合は約半数であった。また、とても良い、まあ良いの割合は、それぞれ 16.3%、26.9%であった。健康状態が普通以上である方は全体の約 7 割であり、回答者は概ね健康であることが分かる。

問 26 2 年前（例えば 2007 年 12 月ごろ）と比べてあなたの健康状態は良くなりましたか



2 年前と比較した場合の健康状態をたずねたところ、約 7 割の方が「同じくらい」と回答している。他方で「良くなった」方は 11.4%、「悪くなった」方はそれを上回る 16.6%いることが分かった。

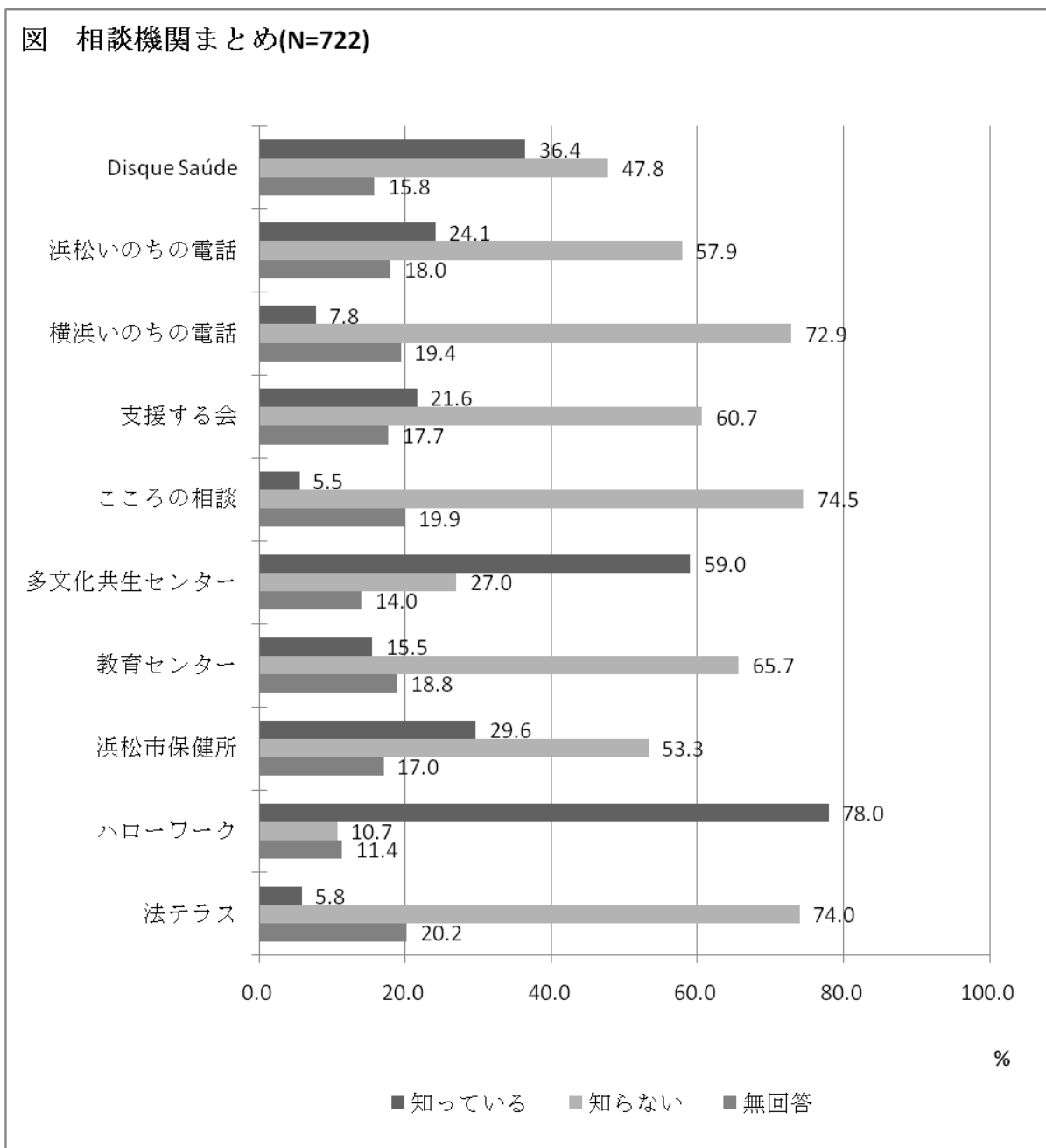
問 28 飲酒の状況についてお聞きします。



図は、飲酒についてたずねたものである。アルコール依存傾向のチェックリストとして、CAGE テストを使用した。質問は「あなたは今までに、飲酒を減らさなければいけないと思ったことがありますか (Cut down)」「あなたは今までに、飲酒を批判されて腹が立ったり、いらだったりしたことがありますか (Annoyed by criticism)」「あなたは今までに、飲酒に後ろめたい気持ちや罪悪感を持ったことがありますか (Guilty feeling)」「あなたは今までに、朝酒や迎え酒を飲んだことがありますか (Eye-opener)」の 4 項目である。このうち、2 項目以上あてはまる場合は、アルコール依存傾向が疑われる。

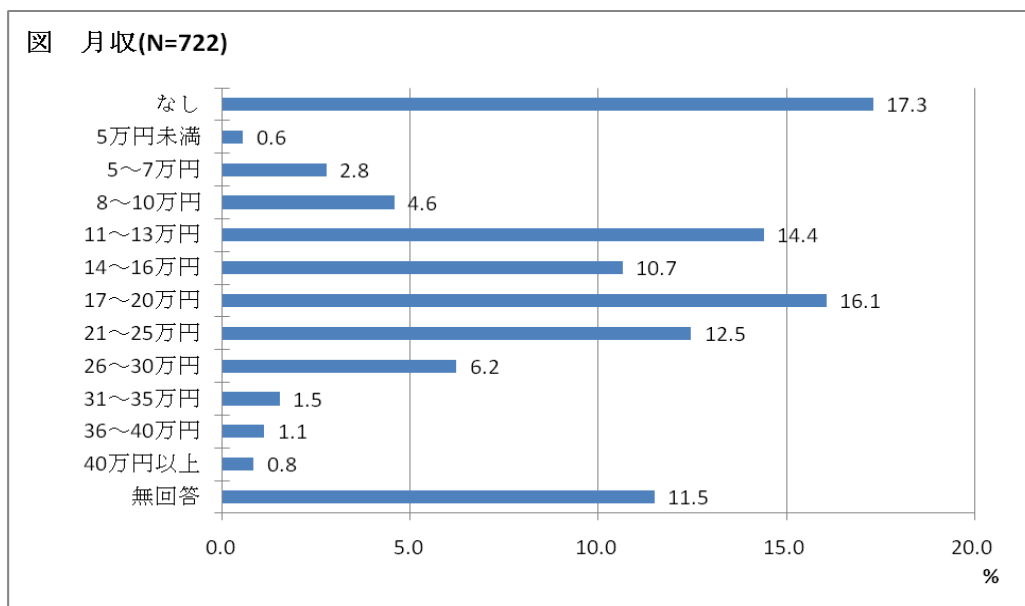
「飲めない・飲まない」と選択した回答を除き、4 項目すべてに回答していた 585 名のうち、33 名 (5.6%) にアルコール依存傾向が疑われた。

問 37 あなたは次の相談機関を知っていますか。



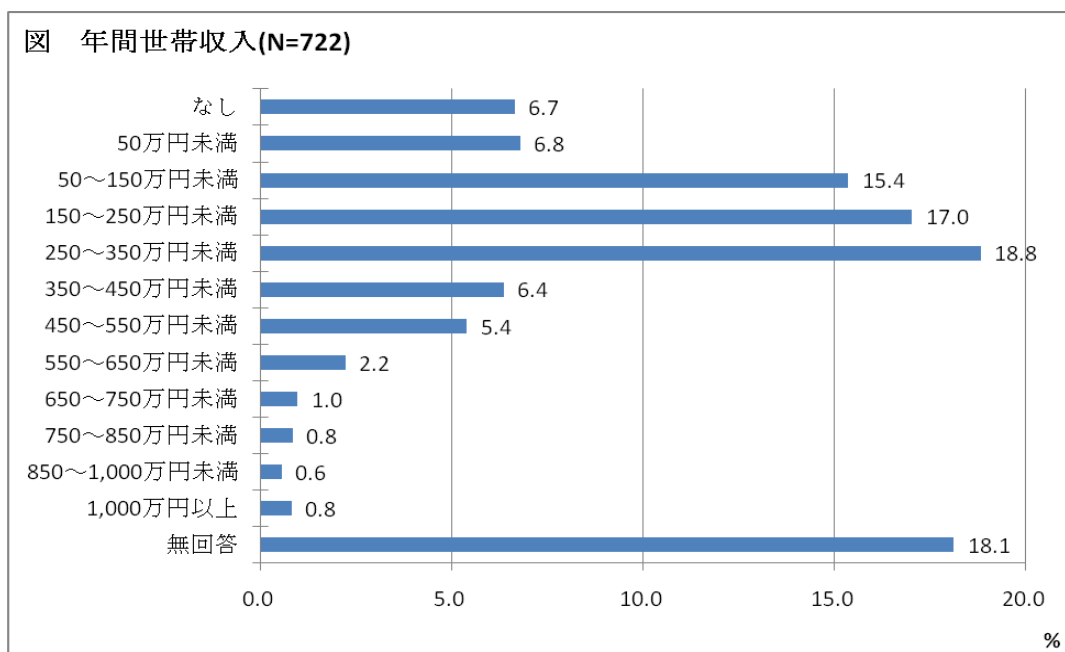
図は、回答者に相談機関への認知度についてたずねたものである。主な結果として、浜松公共職業安定所（ハローワーク）（78%）、多文化共生センター（59%）、Disque Saúde（36.4%）、浜松市保健所（29.6%）の順で認知度が高いことが分かる。浜松いのちの電話、在日ブラジル人を支援する会、教育相談支援センターへの認知度は2割前後であり、認知度はそれほど高くはないことが分かる。また、社会福祉法人横浜いのち電話、名古屋国際センター「いのちの相談」、法テラスについての認知度は1割に達しておらず、認知度が低いことが分かる。

問 38 あなたの現在の1ヶ月あたりの平均的な収入（税込み）についてお伺いします



図は1ヶ月の平均的な収入（月収）についてたずねたものである。回答の分布をみると、「なし」と回答した方の割合が最も高く17.3%であった。また、月収のある方は、「17～20万」（16.1%）、「11～13万」（14.4%）、「21～25万」（12.5%）、「14～16万」（10.7%）の順になっており、これらを合計すると約5割の方が、11万から30万円の範囲に収まる。他方で、「なし」を含めた、「5万円未満」、「5～7万」、「8～10万」の合計は25.3%となっている。

問 39 過去1年間の世帯収入の合計は次のどれに近いですか



図は年間の世帯収入をたずねたものである。「250～350 万円未満」と回答した方の割合が最も高く 18.8%となっている。次いで、「150～250 万円未満」(17%)、「50～150 万円未満」(15.4%)の順で割合が低くなっている。この3つのカテゴリーに約5割の方の回答が収まっている。比較的高い方では「350～450 万円未満」、「450～550 万円未満」がそれぞれ 6.4%、5.4%の回答割合となり、約1割の回答割合を占めている。また、世帯年収が550万円以上の方が全体の約5%いる一方で、「なし」、「50万円未満」と回答した方は、合計すると約14%いることが分かった。